

15. テック・コミンコ社(Teck Cominco Limited)

1. 企業概要

本社	カナダ・ヴァンクーヴァー
主要事業	非鉄金属鉱山・製錬、石炭
従業員数	7,227人
決算日	12月末日
主要関連会社	・テックコミンコ・アラスカ(Teck Cominco Alaska Inc.: 100.0%) ・テックコミンコ・アメリカン(Teck Cominco American Inc.: 100.0%) ・テックゴールド (TeckGold Inc.: 100%)

2. 財務状況 (C\$ million)

	2003年	2002年	2001年
売上高 Revenues	2,410	2,187	2,379
当期損益 Net earnings (loss)	149	30	(21)
資産 Total assets	5,267	4,958	5,153
流動資産 Current assets	933	955	1,044
負債 Total liabilities	2,762	2,438	2,593
流動負債 Current liabilities	392	320	435
株主資本 Shareholder's Equity	2,505	2,520	2,560
探鉱費 Exploration	30	35	62

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移¹

	2003年	2002年	2001年	2003年の 世界シェア
銅鉱石 (千 t)	178.3	201.5	170.4	1.3% (14位)
亜鉛鉱石 (千 t)	825.4	713.9	730.7	9.0% (1位)
亜鉛地金 (千 t)	412.1	361.9	290.2	4.2% (7位)
鉛鉱石 (千 t)	176.2	125.5	157.5	6.3% (3位)
鉛地金 (千 t)	87.8	80.7	55.2	1.3% (6位) ²
金 (t)	8.75	8.9	17.2	0.3% (30位)
原料炭 (千 t)	8,662	6,889	6,671	-

4. 沿革

テック社の前身である Teck-Hughes Gold Ltd.社は、当初金鉱床開発を目的として設立された。その後、合併・買収により事業規模を拡大、銅、亜鉛、ニオブなどの非鉄金属のほか、石炭にも事業対象を広げ、総合資源企業として現在に至っている。

1913年、オンタリオ州 Kirkland Lake において Teck-Hughes 金鉱床が発見され、その開発を目的として Teck-Hughes Gold Ltd.社が設立された。Teck は金鉱床の所在地名、Hughes は鉱床発見者の名前に由来する。34年には Lamaque 鉱山が、同社 2 番目の鉱山として操業を開始した。

63年8月、Teck-Hughes Gold Ltd.社は、Lamaque 鉱山の事業主体であった Lamaque Gold Mines Ltd.社 (37年設立) および Canadian Devonian Petroleum Ltd.社 (51年設立) を合併し、社名を Teck Corp Ltd.社とした。なお、現在の社名 (Teck Corp.) は、78年、カナダ会社法の改

¹ 2001年7月にテック社とコミンコ社は合併してテック・コミンコ社となったが、それ以前もテック社のコミンコ社への出資比率が50.1%であり、2001年のテック社の生産量にはコミンコ社の生産量が全量、反映されている。

² 鉛地金のシェアは、2002年の数字。

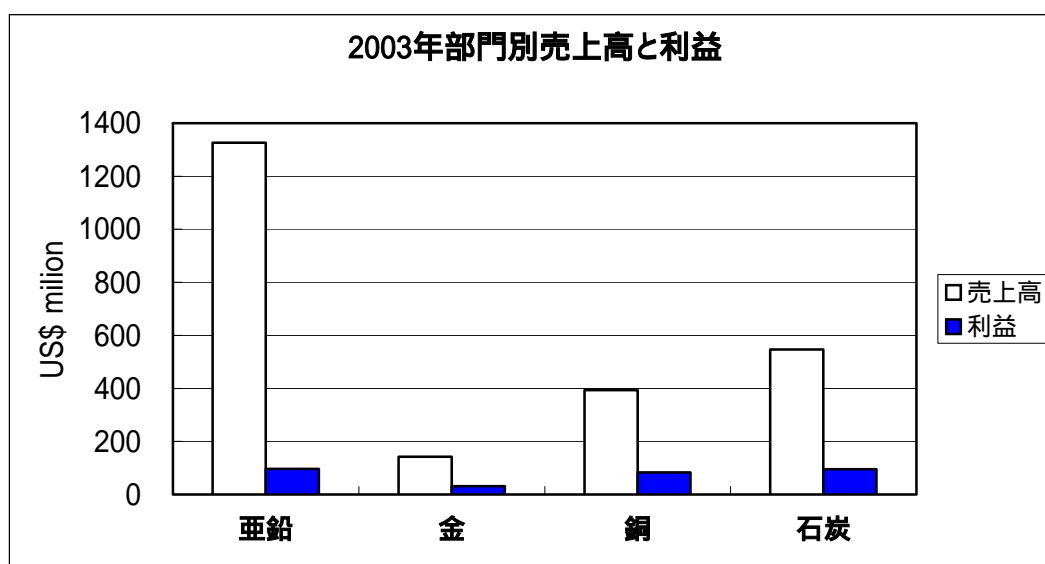
定に伴い登録されたものである。

75年、Newfoundland（亜鉛、ニオブ）Afton（銅）、Highmont（銅、モリブデン）の各鉱山を相次いで開発し、金以外にも対象鉱種を広げた。79年に Brameda Resources Ltd.社、The Yukon Consolidated Gold Corp.社を合併、81年に Afton Mines Ltd.社を統合、さらに83年には Copperfields Mining Corp.社を合併するなど、合併、買収、資本参加による事業拡大を図っている。

86年、テック社を中心とした、MG社（Metallgesellschaft AG：独）、MIM社（豪州）を含むコンソーシアムが、経営の悪化していたコミンコ社の権益を Canadian Pacific Enterprise 社から買収、世界的な鉛・亜鉛の権益を保有するに至った。その後、90年代初めに MG社が経営破綻したことによって資本提携関係は解消されたが、2000年にはコミンコ社に対する出資比率を50.1%に引き上げ、2001年7月に合併し、テック・コミンコ社となった。

5. 事業内容

テック社の事業は、金、亜鉛、銅、石炭の4グループに分けられる。テック社とコミンコ社の合併前は、テック社の売上高に占める割合は金がもっとも大きかったが、コミンコ社との合併で、売上高におけるベースメタルの占める割合が最も高くなった。



利益は Operating profits

(1) ベースメタル

亜鉛・鉛

レッド・ドッグ鉱山（米国・アラスカ）アンタミナ銅鉱山（ペルー）に権益を保有する。なお、ポラリス鉱山（カナダ・ヌナブト準州）は鉱量枯渇のため2002年9月に閉山した。また、トレイル製錬所（カナダ・BC州）カハマルキジャ精錬所（ペルー）に権益を保有し、亜鉛地金などを生産している。ペンド・オレイル鉱山（亜鉛・鉛）が2003年末に完成した。

2003年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
レッド・ドッグ (米国) Red Dog	100	81.6	OP	18.0 % Zn	579 千 t Zn
				4.6 % Pb	125 千 t Pb
アンタミナ (ペルー) Antamina	22.5	458	OP	1.0 % Zn	363 千 t Zn (81.7 千 t)
				4.6 % Pb	5.9 千 t Pb (1.3 千 t)

2003 年主要権益保有製錬所による地金生産

オペレーション名	権益 %	地金生産量 (権益分)
トレイル製錬所 (カナダ) Trail Smelter & Refinery	100	283 千 t Zn 88 千 t Pb
カハマルキジャ精錬所 (ペルー) Cajamarquilla Refinery	85	129 千 t Zn (110 千 t)

- ・ レッド・ドッグ鉱山は埋蔵量・精鉱生産量とも世界最大の鉱山で、68 年に鉱床が発見され、90 年にコミンコ社により生産が開始された。
- ・ 米国ワシントン州北東部に位置する Pend Oreille 鉛・亜鉛鉱床の開発は、2003 年末に完了した。同鉱床は、推定埋蔵量 5.7 百万 t、亜鉛品位 7.7%、鉛品位 1.3%と計算されている。粗鉱生産量 730 千 t/年、亜鉛精鉱生産量 83 千 t/年、鉛精鉱生産量 13 千 t/年が見込まれており、8 年間にわたって Trail 製錬所に鉱石を供給する見通しである。
- ・ 2003 年 11 月、休止していたオーストラリアのレナード・シェルフ鉱山を買収した。2004 年には探鉱が行われる。
- ・ カハマルキジャ精錬所は、94 年にペルー政府から買収したものである。この際、丸紅 (株) が 17%の権益を取得した (2003 年末現在、テックコミンコ 85%、丸紅 14%、労働者 1%)。98 年第 2 四半期に第一期拡張工事が完了し、亜鉛地金生産能力は 20%増の 120 千 t となった。2002 年の 6 月から 8 月の 3 ヶ月間、市場の影響により生産を休止したため、2001 年に比べて 20%弱の生産減となったが、2003 年には逆に生産量の新記録を達成した。
- ・ トレイル製錬所では、2003 年末に電力外販の増加の影響によって亜鉛生産量が減少した以外は、順調な操業であった。
- ・ 2004 年 2 月、鉛製錬炉の爆発により、鉛生産が停止した。この影響により、鉛の年間生産量が減少する見通しである。

銅

ハイランド・バレー (カナダ BC 州)、ルービコート (カナダ・ケベック州)、アンタミナ (ペルー) の各鉱山に権益を保有する。

2003 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ハイランド・バレー (カナダ) Highland Valley	63.9	29	OP	0.42 %	170 千 t (109 千 t)
ルービコート (カナダ) Louvicourt	25	1.6	UG	2.74 % Cu	39 千 t Cu (10 千 t Cu)
				2.0 % Zn	18 千 t Zn (4 千 t Zn)
アンタミナ (ペルー) Antamina	22.5	485	OP	1.22 % Cu	252 千 t Cu (57 千 t Cu)

- ・ ハイランド・バレー鉱山は BHP ビリトン社との JV であったが、2004 年 1 月に BHP ビリトン社の権益 33.57%を買収し、権益 97.5%とすることを発表した。
- ・ 2003 年のアンタミナの操業は、メインピットの底の堆積物を取り除くことに手間がかかり、銅は減産となった。2004 年には堆積物の除去が完了すると予想される。

(2) 金

テックコミンコ社は、ヘムロ・ゴールド鉱山 (カナダ・オンタリオ州) に権益を保有する。

2003 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ヘムロ・ゴールド (カナダ) Hemlo Gold	50	35.8	UG	3.7 g/t	16.7 t (8.3 t)

- ・ ヘムロ・ゴールド社はオンタリオ州の Hemlo 地区にあるウィリアム鉱山、デヴィッド・ベル鉱山を所有(両鉱山ともに 100%)している。両鉱山の生産量は 2002 年以降、ヘムロ・ゴールド社の生産量として合算されている。
- ・ 地下坑道と選鉱場の建設が計画されているポゴ鉱山 (アラスカ) に 40%の権益を所有しており、2004 年に EPA からの許可が得られ次第、企業化の最終判断が行われる。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

テック・コミンコ社の探鉱活動は、本社ヴァンクーヴァーが中心となり、カナダ及び米国に複数の地域探鉱事務所を置き、さらにメキシコ、ペルー、チリ、ブラジル、オーストラリア、トルコ、ナミビアにもプロジェクトに関連した事務所を設置して行われている。同社は、柔軟かつ開かれた探鉱活動を方針としており、自社探鉱だけでなく、多くのメジャー企業あるいはジュニア・カンパニーと共同で探鉱活動を実施している。

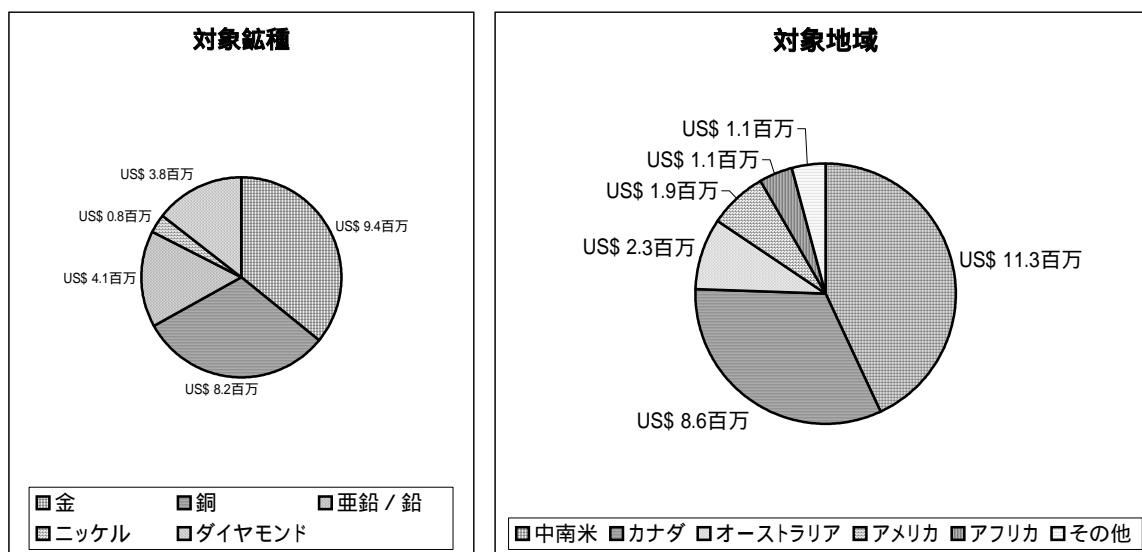
同社の 2003 年の探鉱費は US\$20.7 百万であり、2004 年の予算は US\$26.3 百万に増加した。これは主要非鉄金属企業中第 14 位である。

(2) 対象鉱種

テック・コミンコ社は金、銅、亜鉛、ダイヤモンド、ニッケルを主な探査ターゲットにしており、この順に探鉱予算が振り分けられている。

(3) 対象地域・探鉱段階

2004 年、テック社は中南米地域に約 43%の予算を充てているほか、北米に約 33%の予算を充てている。探鉱段階ではグラス・ルーツに US\$23.3 百万 (89%)、事業化調査に US\$1.9 百万 (7%)、鉱山周辺調査に US\$1.1 百万 (4%) が充てられている。



2004 年の探鉱予算

(北米)

カナダでは、ブリティッシュ・コロンビア州、オンタリオ州、ヌナブト準州、ノースウェスト

準州でダイヤモンド、金及びベースメタルを対象にグラス・ルーツの探鉱を実施している。

ダイヤモンドを対象として、ビクトリア島のブルー・アイスプロジェクトの権益 30%を取得しており、2004 年には電磁探査が行われる。

オンタリオ州の北西のリザー・ゴールドプロジェクトでは、55%の権益を取得している。金を対象として、電磁探査およびドリルによる探査が行われている。

オンタリオ州北西のラローズ、レッド・レイクにおいて資金を投入し、探査を行う。

アラスカでは、ポゴ・プロジェクトおける金鉱山の開発が有望視されている。

(中南米)

テック・コミンコが所有していたロス・フィロス(メキシコ)の権益は、2003 年 11 月までにすべて売却された。メキシコ・シティ南西の El Limon の権益については 87.8%を所有している。

他の地域では、チリ、ペルー、ブラジル、アルゼンチンで銅や金を対象とした初期探鉱を実施している。

(オーストラリア)

金とベースメタルを対象として探査を行っている。西オーストラリアのホイートリプロジェクトでは、ベースメタルの探査を進めている。

(その他)

ナミビアで亜鉛を対象とした初期探鉱を実施している。